

平成29年度  
人間教育専攻臨床心理士養成コース  
試験問題表紙

中期

28.11.26

(3年以上の教職経験を有する者)

解答上の注意

1. 表紙1枚, 問題用紙3枚, 解答用紙3枚あるかどうかを確認のこと。
2. 問題1, 2, 3, 4の全てに解答すること。
3. 解答用紙の所定の欄に解答すること。
4. 全ての解答用紙の受験番号欄に受験番号を必ず記入すること。
5. 試験終了後は, 解答用紙のみを回収するので, 解答用紙以外は持ち帰ること。

人間教育専攻臨床心理士養成コース試験問題

問題用紙全3枚(その1)

(3年以上の教職経験を有する者)

**問題 1** 次の文章を読んで、問1～3に答えなさい。

小学4年生男子のA君は、発達障害の診断を受けている。最近仲間外れにされるとA君に言われた母親は心配して来談した。カウンセラーは20歳代前半で未婚、子育て経験がなかった。面接中に沈黙が多く、カウンセラーは母親が何か不満を持っているように感じたので「何か面接で気になることがおありですか?」と尋ねると、母親はカウンセラーに「結婚も子育てもされた経験はないんですよ」と言った。

問1 発達障害者支援法第二条で挙げられている発達障害を3つ書きなさい。

問2 小学4年生頃には、子どもは遊びを中心として同性の4～8人の集団をつくり、「われわれ意識」を形成していく。この時期を何というか答えなさい。

問3 \_\_\_\_\_部分の母親の発言に対して、どう応えるか、その理由も簡単に書きなさい。

**問題 2** 次の文章を読んで、問1～2に答えなさい。

学校に行きづらくなり、朝には頭痛や腹痛を訴えるようになった小学1年生女子のB子連れて母親がスクールカウンセラーに相談に来た。スクールカウンセラーはB子には遊戯療法を行うことが適切と考えて、遊戯療法が行える大学の相談室のカウンセラーに担当をお願いした。

問1 \_\_\_\_\_部のカウンセラーの業務を何というか書きなさい。

問2 B子に言語面接ではなく遊戯療法を行う理由を書きなさい。

人間教育専攻臨床心理士養成コース試験問題

問題用紙全3枚(その2)

(3年以上の教職経験を有する者)

問題 3 以下の問1～問10の文章について、①～⑩にあてはまる語句を答えなさい。

- 問1 ある変数 Y のばらつきを、他の変数によって説明したり予測するための統計的方法を ( ① ) 分析という。( ① ) モデルの母数の推定は、一般的に、最小二乗法や最尤 (さいゆう) 法により行われる。
- 問2 幼児期には主観と客観が未分化なため、すべてのものに生命や意識があると考え ( ② ) 的な傾向が強い。
- 問3 ある学習をすると、そのことが別の学習事態になんらかの影響を及ぼすことを学習の ( ③ ) という。片側の手や足で練習した効果が反対側のそれらに波及する場合を特に両側性 ( ③ ) という。
- 問4 情報の貯蔵機能に焦点を当てた短期記憶の概念を発展させたもので、会話、読書、計算、推理などにおける情報の操作や変換といった処理機能を重視したものを ( ④ ) という。
- 問5 ピアジェ (Piaget, J.) は、認知的適応は、生物学的適応と同様に、同化と ( ⑤ ) の均衡から成り立っていると考えた。同化とは環境を自分のなかに取り込む働きであり、( ⑤ ) とは自分を環境に合わせて変える働きである。
- 問6 いくつかの個別的知識から、一般的法則を導き出す思考過程を ( ⑥ ) 推理という。たとえば実験科学で、実験結果をもとにしてなんらかの仮説を立てる場合などに用いられる。
- 問7 精神科医のマキンリ (Mackinley, J. C.) と心理学者のハサウェイ (Hathaway, S. R.) によって開発された真偽型の質問紙は ( ⑦ ) である。妥当性尺度、臨床尺度および追加尺度からなる。
- 問8 ドイツの精神医学者である ( ⑧ ) は、患者の示す兆候や経過に従って、精神病を早発性痴呆 (統合失調症) と躁うつ病を柱とする疾患単位に分類した。作業検査タイプの人格テストを考案したことでも知られる。
- 問9 人々が身の周りに起こるさまざまな出来事や、自己や他者の行動に関して、その原因を推論する過程、およびそのような原因推論を通して、自己や他者の内的な特性・属性に関する推論を行う過程に関する理論を ( ⑨ ) 理論という。ハイダー (Heider, F.) が最初に提唱した。
- 問10 精神分析の創始者であるフロイト (Freud, S.) は、1895年にブロイアー (Breuer, J.) との共著「( ⑩ ) 研究」を発表した。この著作にはアンナ-O の症例が報告されている。

人間教育専攻臨床心理士養成コース試験問題

問題用紙全3枚(その3)

(3年以上の教職経験を有する者)

**問題 4** 特別な支援を要する子どもたちへの対応において、あなたがこれまでにスクールカウンセラーと連携して実践してきた事例の中で、連携の観点からその評価できることと課題を述べなさい。連携した事例がない場合は、今後連携する場合の注意点について述べなさい。なお、記述にあたって、特定の校種を念頭に置いている場合は、それを明記し、プライバシーに十分配慮して記しなさい。